

演奏

Prokofieff; 5 Melodies. op. 35 *bis* 1920 (1925)

Sergei Sergeievitch Prokofieff

(April 23, 1891~March 4, 1953)

ヴァイオリン独奏 神前百代 (本学助手—ヴァイオリン)

ピアノ伴奏 大北路子 (本学研究生—ピアノ)

プロコフィエフはスクリャービン、ラフマニノフなどより一世代若い作曲家である。ラフマニノフと同じ様にすぐれたピアニストでもあったプロコフィエフは、彼の先輩たちの重厚なロマン派的な傾向に対し、反ロマン的な作曲態度をもってこれに対したのであった。

彼は1917年のロシア革命により、翌1918年から15年間にわたる亡命の旅に出る。1922年まではアメリカに、その後ヨーロッパにわたり、パリを中心として活躍し、1933年に祖国へ帰国して亡命の旅を終っているが、この「5つのメロディー」はその亡命中の作品であって、彼の作品中では、初期のものに属するものである。アメリカ滞在中に発表した彼の第三ピアノ協奏曲もそうであった様に、彼はロシア民謡風のメロディーを基礎にして、1920年アメリカに於いて声楽曲「五つの歌詞のないメロディー」(op. 35)を作曲している。これを1925年(恐らくパリに於いて)ヴァイオリン用に改作したのがこの曲である。

全5曲のうち、その第1, 3, 4曲は、1919年以来アメリカへ亡命していたコハンスキー(Paul. Kochanski,—1924年からはジュリアード音楽学校に在職)に捧げられ、また第5曲は1924年以来パリに在住のシゲティ(Joseph, Szigeti)に捧げられている。また第2曲は Cecilia Hansen に捧げられている。

5曲いづれも短い曲から成るが、そこには民謡を基礎にしたものにありがちな感傷と言ったものとは、また違ったものがある。むしろそこには、若い頃から影響を受けて来たディアギレフのロシアバレエの音楽的道化とアイロニーを、そこにも感じとることが出来るであろう。

- 第1曲 Andante
- 第2曲 Lento, ma non troppo (割愛)
- 第3曲 Animato, ma non allegro (//)
- 第4曲 Allegretto, leggero e scherzando
- 第5曲 Andante non troppo

解説 久納 慶一 (本学講師—楽書講読)